

**平成30年度教育事業 環境教育学習プログラム開発事業
「子ども環境探検隊・栗駒山麓ジオパーク編」**

- 1 趣 旨 花山青少年自然の家の周辺フィールドにある豊かな自然のもと、自然体験活動を通じて、自然の仕組みについて理解を深めるとともに、その保護や活用について考え、地域に根ざした環境教育の推進を図る。
- 2 主 催 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家
- 3 後 援 宮城県教育委員会・栗原市教育委員会
- 4 協 力 宮城県・栗原市・栗駒山麓ジオパーク推進協議会
- 5 概 要 (1) 期 日 平成30年10月6日(土)～8日(月・祝)〔2泊3日〕
(2) 参加者 ①参加対象・募集人員 宮城、岩手県内の小学校4年生から6年生・25名程度
②参加総数(参加状況) 25名(応募者数27名 ※キャンセル2名)
- 6 場 所 国立花山青少年自然の家 及び 栗駒山麓ジオパーク(ジオサイト)
- 7 講 師 (1) 栗原市役所 商工観光部 ジオパーク推進室主査 堀江 仁 氏
(2) 栗原市役所 栗駒山麓ジオパーク専門員 原田 拓也 氏
(3) 栗原市役所 栗駒山麓ジオパーク専門員 門間 哲司 氏
(4) 栗原市役所 栗駒山麓ジオパーク専門員 小林 美月 氏
(5) 栗駒山麓ジオパークガイド 高橋 郁生 氏
(6) 栗駒山麓ジオパークガイド 熊谷 喜世 氏
(7) 花山座主 工藤 修二 氏
- 8 企画・運営のポイント
平成27年に認定になった「栗駒山麓ジオパーク」を巡る探検として事業を企画した。栗駒山麓の地形や地質がどのような災害に結びつくのかを、実験装置を使って地滑りや火山爆発のメカニズムを学んだ。地表や岩石、植物の植生について観察し、かつてこの地域は火山噴火があったことや、植物の保全に関する取組がなされていることを学んだ。また、「荒砥沢崩落地」の見学を行い、ジオパーク認定のきっかけになった「地質百選」の概要を学んだ。

9 日 程

	活 動 内 容
10/6(土)	【導 入】栗原防災学習センターにて、地震の揺れや消火など防災についての学習をする。栗駒山麓ジオパーク推進室の方から山麓フィールドの話聞く。
10/7(日)	【展 開】荒砥沢崩落地の見学や、栗駒山でトレッキングを行い、自然の雄大さを感じとり、環境の大切さや保全などについて学ぶ。
10/8(月・祝)	【まとめ】花山の自然環境を生かして活動している陶芸の先生を招いて、クラフト活動をする。また、花山青少年自然の家のフィールドを生かしたネイチャーゲームに取り組む。

10 活動の内容について

【10月6日(土)1日目】「栗原防災学習センターでの防災学習・栗駒山麓ジオパークの解説及び実験」



【10月7日（日）2日目】「御駒山ハイク・荒砥沢地滑り見学・細倉マインパーク見学・岩石標本作り」



【10月9日（月・祝）3日目】「花山座主窯陶芸教室・花山フィールドネイチャーゲーム」



11. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足：92.0% やや満足：8.0% やや不満：0% 不満：0%

参加者25名に対して行ったアンケートの集計結果は、「満足」の割合が高く、この事業は総合的にみて好評であった。台風による強風のため栗駒山トレッキングができなかったが、代わりに御駒山ハイクを取り入れた。講義・実験や体験・見学・フィールドワークがバランスよく、参加者が飽きることなく活動に取り組めたことが満足の要因と考える。

(2) 参加者の声

- ・荒砥沢の地滑りがなんで水平移動したのかが不思議だった。本当にあったことを実験したり、実際に見たりできたことがよかった。
- ・4年生の時から参加しているけれど、毎年少しずつ内容が違っていて、面白い。今年は、栗駒山には登れなかったけれど、新しい友達とともに仲良くできた。
- ・かなり珍しい地形をしていて、地形100選に選ばれていることは知っていたので、実際に地層を見てみて、とても迫力があつた。
- ・ジオパークや岩石標本作りなど、分かりやすく、たくさん知ることができた。栗駒山には登れなかったけど、御駒山に登れてよかった。 など

(3) 成果

- ・「栗駒山麓ジオパーク」の解説や、「自然災害のメカニズム」について、講義や実験を通して学ぶことができた。実際に荒砥沢崩落地の見学をすることで、自然の雄大さにふれ、普段の生活では体験できない環境学習プログラムを、参加者に提供することができた。
- ・台風通過による強風のため、栗駒山トレッキングはできなかったが、代わりに行った細倉マインパークの見学や御駒山ハイクと、臨機応変で参加者にとって満足度の高い活動プログラムになった。
- ・座主窯陶芸教室とネイチャーゲームをグループ毎に同時進行で2回に分けて行った。時間的にも有意義に活動に取り組めたことと、屋内と屋外、動と静の活動でメリハリのある活動を行うことができた。
- ・アンケート集計の結果、ジオパークの活動プログラムの満足度が高かった。今後も、より良いプログラム開発に向けて、さらに連携を図っていきたい。

(4) 課題

- ・「栗原市役所商工観光部 ジオパーク推進室」には、今年度も事業への協力を快く引き受けていただいた。来年度は、共催という形で、活動プログラム、開催時期、内容について再検討していきたい。
- ・今回は、栗原市からの参加者が多かったが、県内各地・岩手県や山形県にも広報を拡大するなど、さらなる参加者獲得のための工夫が求められる。

担当：企画指導専門職 安達章美